

ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第9回〕

『弦が揺れると、僕は季節の風になる』

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

「10年もやってるなんてもうベテランだね」

先日出演したラジオでそう言われた時にハッとしました。

今年TSUKEMENは結成して10年目を迎えました。ヴァイオリン2本とピアノという編成で、生音を基本に、試行錯誤を繰り返しながらここまでやってきました。

PA（機械を通した音）を使用するのが一般的ですが、僕たちにとっては昔から生音が普通でした。曲は自分たちの作ったオリジナル曲をメインに活動をしています。今年の4月18日にフルオリジナルのニューアルバム「X」（テン）が発売になりました。そのアルバムを引っさげて今全国津々浦々ライブツアー中です。

デビューしてすぐ、クラシックの人からはポップスと言われ、ポップスの人からはクラシックと言われ、某CDショップではイージーリスニングに配置されました。

それを見て、TSUKEMENだけ

に麵で例えるわけではないですが、ラーメン屋さんで「これはそのお店の名前というジャンルであって、ラーメンのカテゴリではない」という域まで達している個性を放つラーメン屋さん（例えば○郎系や、○本の辛いスープ、○んしゃん等）のようにオンリーワンの「TSUKEMEN」というジャンルを確立すべく日々一意奮闘しています。

今まで以上に沢山の人の興味を持ってもらいたい、そしてライブでもっともっと一体感を感じてもらえるにはどうしたらいいか、と色々試行錯誤しながらプログラムを組んでいます。

参加型のライブを考えた時に「生音」という状況がなかなかハードルが高く、またやりがいもあります。例えば手拍子がかきたときに、我々の音が手拍子にかき消されて聞こえなくなることもあります。その時はお客さんが気を使って、徐々にトーンを落としてフェードアウト、みたいになります。

ある意味「生音の限界」ギリギリの所を狙ったエンターテイメントになっ

ています。そういう意味では先人のいない所を進んできたな、という感じがあります。

始めの話に戻りますが、「10年もやったらベテランだね」と言われた時に、自分の意気込みや気持ちでデビューした当時と変わっていない部分が多かったのも驚きでした。

これからは、「ゆくゆくは」「いずれになりたい」という言葉にかまけずに、自分たちの目標を実現し、夢を自分たちのもとにたぐり寄せていきたいなと思っています。



profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストリーダー。
2010年キングレコードからメジャーデビュー。
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。